

第6期第3回横浜市子ども・子育て会議（総会） 会議録

日 時	令和5年7月31日（月）午後6時30分から午後8時30分まで
開催場所	横浜市庁舎18階みなと1・2・3会議室
出席者	大日向雅美委員長、明石要一副委員長、池田浩久委員、石井章仁委員、上岡朋子委員、大庭良治委員、金 明希委員、倉根美帆委員、清水純也委員、田中 健委員、津富 宏委員、萩原建次郎委員、辺見伸一委員、堀 聡子委員、松井陽子委員、三浦尚美委員、水谷隆史委員、八木澤恵奈委員
欠席者	青山鉄兵委員
開催形態	公開（傍聴者0人）
議 題	<p>1 各部会からの報告</p> <p>2 議事 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について</p> <p>3 報告事項 (1) 「はじめてのおあずかり券」及び「子サポdeあずかりおためし券」の配付について (2) 横浜市立大学と連携したハマスタディ調査結果について</p>
決定事項等	なし
<p>1 部会報告</p> <p>各部会から資料に基づき報告</p> <p>○萩原委員 青少年部会の報告ですが、資料7の報告事項の(2) 青少年の地域活動拠点づくり事業の効果的実施に向けた検討の報告内容で「検討の進め方について説明があり、内容について了承した」と書かれています。他の報告事項では「意見交換を行った」と書いてありますが、ここだけ「了承した」と書いています。部会の議事録も確認しましたが、特にこれは審議事項ではなく、意見交換だったように思われます。記録としても、記憶としても、了承というようなことは特に確認はされていなかったと思います。</p> <p>これは地域活動拠点づくりの根本的な見直しや再編にも関わる大きな議題になろうかと思しますので、ここで了承という言葉が使われるというのは、重い言葉かなと感じています。ここは意見交換という認識をしていますが、いかがでしょうか。</p> <p>○津富委員 今のご指摘のとおりだと思います。その場では意見交換をしたと理解をしております。</p> <p>検討の進め方について説明があり、「これから進めていきます」ということについて理解したわけですが、「具体的に拠点づくり事業はどのようにあるべきか」ということについては議論の途上だと理解をしています。そのため「内容について」の内容が、これから検討していくということについて了承したということがきちんと分かる表現に変えていただけるとありがたいと思います。</p> <p>○事務局 中身そのものというよりも、私どもでこれから先生方に議論とかをしていただく内容をご提示しまして、そういった方向でこれからやっていきますということについてご了解をいただいたということで、内容というのが確かに非常に曖昧な感じになりますので、ここについては、今後の進め方とかそういった形に変更させていただければというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。</p> <p>○萩原委員 了承という言葉は、残すべきなのでしょう。意見交換だったように思います。</p> <p>その場で了承という言葉は出てこなかったことなので、そこがやはり気になるところです。言葉としては重みがありますし、今後の進め方ということにおいても、我々委員が分かりましたという形で頷く場面はなかったかと思えます。</p>	

○津富委員 ありがとうございます。意見交換を行ったことは、その通りです。

しかし、単純に意見交換を行い、委員の意見を聞いていただいたということだけではなく、今後検討していくということについては、今回限りではなく、これから部会で議論していくということについて了解したのではないかと考えておりますが、いかがでしょうか。

○萩原委員 分かりました。今後の議論の進め方ですね。

了解ぐらいだったら分かるのですが、了承というのは非常に重い言葉だなというふうには思いません。

○津富委員 「今後議論していくことについて了承した」という表現でしょうか。

○事務局 了承という言葉が少し確定的ということであれば、了解もしくは意見交換ということにとどめていただいても差し支えはありません。

○津富委員 この議題を今回限りに終わらすつもりではなく、今後やっていきたいと思いますという事は理解してました。今後議論を続けていくと思うので、議論したで終えていただいても構いません。

○大日向委員長 部会長がそうおっしゃっていただきましたので、繰り返します。「検討の進め方について説明があり、今後議論していくことについて意見交換を行った」。よろしゅうございますね。ありがとうございます。

○大庭委員 保育・教育部会について、補足させていただきます。案件の差し戻しや再審議等が多くなってきました。状況としては、園が定員割れといった状況で、園の形態によっては運営が非常に難しくなっているところもあり、ただ増やすとただでなかなか了承できない案件が出てきたということをご理解いただければと思います。その分、本当に慎重に審議もしておりますので、この流れで今後も審議を続けさせていただければと思います。

1点お聞きしたい点は、小学校の給食についてです。東京都など、夏休み等に給食を提供する自治体が増えています。また、小学校においては給食が夏休み前に早く打ち切られてしまったり、お正月もしばらくたたないと出てこないといった状況がありますが、横浜市はどのような状況で、改善していくのか、現状のままなのかなど、お聞かせいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

○事務局 長期休業期間中の昼食の提供については、保護者のニーズも非常に高いことありまして、ご意見をいただくこともありますので、現在、検討を進めているところです。

2 議事

第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について

事務局から資料に基づき報告

○大日向委員長 大変な調査だと思えますが、既に各部会で詳細にご検討いただいたということと、そこで出されたご意見を事務局で可能な限り取り入れていること、一部取り入れることができなかったことに対しては別途詳しい説明もつけていただいたということで、部会、事務局、それぞれに本当にお疲れさまだったと思います。ありがとうございました。

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いをしたいと思います。

○池田委員 2つ質問をさせていただきます。

1つ目は、うちも小学生2人と未就学児1人がいるのですが、小学生と未就学児の調査票が両方一緒に来ることがあるのでしょうか。また、一緒に調査票が来た場合に、インターネットで回答する際に、共通項目はどちらか一方を回答すれば済むのかなど、回答しやすさというのはあるのでは

ようか。

私も港南区で拠点や社会福祉協議会を含めて60団体ぐらいの子育て連絡会の代表をさせていただいているのですが、ニーズ調査を皆さんに周知するときに、どちらでも同じなのか、やりやすいのかという事情を知りたいということが1点あります。あとは、港南区の区P連の今回の役員もさせていただいているので、小学校向けにも十分ニーズ調査を周知できるかなというふうにも思っているので、やりやすいところがあるようでしたら教えていただきたいのが1点目です。

2つ目は、父親と母親の回答ですが、どちらかの回答なのでしょう、それとも両方できるのでしょうか。つまり、夫婦で話し合って回答できるようになっているのか、それとも前回の調査で、回答者のほとんどが母親だった場合、父親のニーズは把握できるのかということを知りたいです。

例えば、育休中の設問は、母親・父親の両方の回答ができることになっていますが、子育て相談したいのかなどの設問は、父親・母親それぞれの回答ができるようにはなっていなかったの、そういうふうに分かるのかどうかというところを教えていただきたいというのが2点目です。

○事務局 1点目ですが、1つの世帯に対して、小学生と未就学児の2つ調査票が届くことはないよう、対象者を抽出する際に整理をしています。

2点目ですが、保護者の方のニーズを伺う調査なので、回答内容は話し合っただけかもしれませんが、1人の方が回答することを想定し、問いを組み立てています。答えづらい部分など、ご指摘いただければ考えたいと思います。

○池田委員 ありがとうございます。前回の調査で父親と母親の回答の割合を教えてくださいませんか。もし回答者の9割9分が母親だとしたら、父親のニーズはどこで見えるのかなと思いました。

本日、父親の育休取得率が17%という数で上がっていましたが、これからは、そのような部分をどのように横浜市の中で捉えていくのかなというのが気になりました。

○事務局 5年前調査では、未就学児調査・小学生調査ともに、回答者が母親となっている割合が85%です。無回答の方もいるため、回答者が父親となっている割合は15%弱になります。

回答にあたっては、ご相談されて回答していただいている場合もあるかと思いますが、調査の結果という形でご報告をさせていただきます。

○大日向委員長 ありがとうございます。父親も答えやすいような、それこそ呼びかけとか、かがみ文などで工夫をいただければ、ありがたいと思います。

○三浦委員 未就学児調査の間34「第1子のお子さんの妊娠中と現在、それぞれの時期によく利用していた子育てに関する情報の入手手段をお答えください」で、選択肢の11番で「こんにちは赤ちゃん訪問員、育児教室」と書かれていますが、こんにちは赤ちゃん訪問員の活動と育児教室は全く別物だと私は考えています。

こんにちは赤ちゃん訪問員の活動は、お子さんが生まれた全てのご家庭に伺い、情報提供や安否確認など、民生委員もやらせていただいています。育児教室とは全く色合いが違うため、できれば別々に状況を把握していただけたらうれしいなと思います。赤ちゃん訪問に非常に力を入れられていると思いますが、情報提供という意味でどの程度効果があるのかなどの状況が見えるかと思うので、ご検討をよろしく願いいたします。

○事務局 ご指摘を踏まえ、選択肢を分けられるか検討させていただきます。

○金委員 質問が3点あります。

1点目は、資料8の3ページに、前回調査の回収率が46%となっていますが、今回の調査での回収率の目安や目標などがあれば教えていただきたいです。質問の意図としては、回答にご協力いた

だく方の声が実際に次期計画になるというのが自分の中に初めにあると、この調査票はもっとしっかりと回答しなきゃいけないなということにつながるかなと思いました。調査の趣旨をもう少し盛り込めることができれば、回収率アップにも寄与するのではないかなと考えます。

2点目は、実施時期が10月ですが、おおよその回答期限をどのくらいを見ているのでしょうか。

3点目は、仮に回答がなかなか来なかった場合、何かフォローなどの対応を考えているのかということをお教えいただきたいと思います。分かる範囲でご教示いただければと思います。

○事務局 1点目のニーズ調査の回収率ですが、具体的な目標というものは定めておりませんが、多くの方にできるだけ回答していただければと思っております。なお、本市で実施している他のアンケートと比べても、前回調査の46%はかなり高い結果となっており、調査のボリュームがある中でも関心高くご回答いただけていると思っております。

届けていただいた声がどのように施策に反映されていくかなどは、調査票とは別に作成予定の依頼文の中に記載するよう努めさせていただければと思っております。

2点目の回答期限ですが、10月末を期日とさせていただく予定で考えています。

3点目の回答が来ない場合フォローですが、調査期間の途中で、回答の有無に関わらず、全ての方に対して、調査協力へのリマインドと御礼のはがきを送付する予定です。

○金委員 ありがとうございます。大変よく参考になりました。

私は、小学生4年生、2年生がいますが、アンケートもしっかりと答えられておりましたし、子どもの色々な声も実際家の中でも聞いたので、ぜひ皆さんにもニーズ調査が行き渡って、きっちり回答が届けばいいと思います。

○石井委員 他の自治体の方に、ニーズ調査にあたって、国のガイドラインに基づいて調査項目ができています旨の話を聞いています。今回は、まだ国のガイドラインが出されていないと思いますが、横浜市では、今回の調査は、前回のガイドラインなどを参考にしながらと検討しているのでしょうか。

国のガイドラインを目にしたことがなかったので、確認させていただければと思います。

また、小学生の質問に関して、国のガイドラインでどのようになっていたのか、あわせて確認できればと思います。よろしく願いいたします。

○事務局 ニーズ調査については、子ども・子育て支援事業計画を各自治体が立てていくにあたって、教育・保育の「量の見込み」と「確保方策」等を算出するのに必要な調査を行うことになっています。そのため、第1期計画や第2期計画の策定期間に合わせて、国から質問項目のガイドラインが出されています。横浜市では、国の情報を前取りしながら可能な限り反映させるように努めているのですが、今回は、まだ国から調査票のガイドラインは出されておられませんので、前回のものを参考に今回の調査票を組み立てています。

横浜市は非常に大規模な自治体ですので、国のガイドラインが出てから進めると計画の策定に影響が出てしまうこともありますので、調査などは前倒しで進めています。

なお、小学生調査については、国からガイドラインは示されていないものになります。

○津富委員 こども基本法を踏まえて、子どもの意見を聞くご説明があったと思います。国の立てつけ自体の問題かもしれませんが、子どもに意見を言ってもらい、それを生かすといった仕組みになっていると思いますが、もし、今後可能であれば、子どもや若者自身が自分たちで話し合いをして、意見を取りまとめるとの取組ができると良いなと思います。

資料8の18ページの③が近いとは思いますが、例えば、現状、横浜市のやっておられることで言えば、子どもたちが利用する施設が様々あるのですが、そのようなところで子ども自身が意思決定

に関われる、つまり、その施設単位で子ども自身が構成する運営協議会のようなものを設けて、その施設のスタッフの方が裏方・事務局をやるような感じになると思います。そこで子どもたちが意見をとりまとめて、また意見を表明していく、個人の意見ではなくて、少なくともその場のみんなの意見を、一種の代表性がある意見として取り出せる仕組みになると良いなと思いました。

また、同じようなことですが、審議会や懇談会で子どもや若者を登用したとしても、個人の意見になってしまうため、今回の調査もですが、登用される方々の背後にある、色々な子ども・若者の意見を聞くなど、委員になる若者の発言を支えられるような仕掛けがあるといいなと思います。

これはすぐ実施できるようなことではなく、長期的なことですが、それぞれの若者団体があって、若者団体に助成金を出し、そこがたくさんの子ども・若者を抱えていて、その取りまとめた意見を政策に反映するような流れが北欧ではあるので、個人の意見ではなくて、何か子ども・若者を組織化するような仕組みがあると良いなと思って発言させていただきました。

○事務局 今回は、こども基本法が施行されたこともあり、子どもの意見を聞く取組について資料にまとめさせていただきました。難しいと思っている部分もありますので、いただいたご意見なども踏まえつつ、国や他の自治体等の状況も勉強しながら、より良い意見のいただき方や反映方法を考えていきたいと思います。

○大日向委員長 津富委員のご意見は大変大事な点です。子どもの意見を聞くというのは、単にアンケートで聞きなさいと言っているわけではなく、子ども基本法や子どもの権利の中には「参加する権利」というのもあるというご指摘だと思います。子どもたちが自主的に会を設けて意見表明をするような、そんな取組をいずれというようなご意見ではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。ありがとうございます。

○清水委員 この調査の作成はとてもうれしいです。ありがとうございます。子ども本人の質問の対象は、4年生以降になりますけれども、子どもの意見が聞き取ってもらえるというのはありがたいですし、保護者を介さずに子ども本人の意見が取り込めるというのはすごくうれしいなと思います。

一方で、3年生以下の子どもの意見について、私は幼稚園協会なので、特に乳幼児の意見というのはなかなか出ないというところを、発言させてもらいたいと思います。

少子化担当の小倉大臣も、子どもたちと会議しているのをYouTube等で発信していますし、「こどもかいぎ」という映画などでも、幼児とはいえ、そんなことまで考えているのだと気づかされるころがたくさんあります。

未就学児のニーズ調査は、保護者向けの調査となっています。資料8別紙4のNo.59でもご回答いただいています。子どもと関わっている私たちの意見は、幼稚園の団体や保育園の団体等である程度意見を集約し、みんなの意見として出していくようにしたほうが良いのかなというのは私も感じています。今後も皆様と一緒に、子育てしやすいまちもちろん大事ですが、子どもが育ちやすいまちという視点で私たちは取り組んでやっていきたいなというのを感じさせてもらいました。

○堀委員 調査項目について、3点気になったことがございましたお伝えします。

1点目は、未就学児調査の問19「親子の居場所」について、(1)「親子の居場所を利用していますか」という質問で、選択肢2が「利用していない/過去に利用していた」となっていますが、「利用していない」と「過去に利用していた」を1つの選択肢にするのは少し難しいかなと思います。項目が増えてしまうかもしれませんが、「2. 現在は利用していないが過去に利用していたことがある」、「3. 利用したことがない」のように、選択肢を3つに分けたほうが良いのかなと思いました。過去に利用していたと答えた方に関しては、現在利用している人が答える(2)のよう

な、「過去のおおよその利用日数をお答えください」というのと、「利用目的・理由をお答えください」と同じように聞けるといいのかなと思いました。

2点目は、未就学児調査の間26に「子育てについて、気軽に相談できる人はだれですか」、間27に「現在、子育てに対する周囲からの支えがありますか」、間28に「預かってもらえる親族・知人はいますか」と続いています。家族内での育児の状況についても、日頃の子育てについてどのように行っていますかということで、例えば、「1. もっぱら母親が行っている」、「2. 主に母親が行うが父親も手伝う」、「3. 母親も父親も同じように行く」、「4. 主に父親が行うが母親も手伝う」、「5. もっぱら父親が行っている」など、家族内での分担状況といったものも聞いたほうがいいのかなと思いました。項目が増えてしまうのですが、ご検討いただけるとありがたいと思います。

3点目は小学生調査の間19「放課後等デイサービスについてお答えください」の利用していない理由で、選択肢の12が「子どもが行きたくないという」、13が「子どもが利用しなかったから」と、12と13がほぼ同じ理由かと思しますので、統一して「子どもが利用しがない」としていただいたほうが良いかなと思いました。

○事務局 いただいた3点について、設問数の限界もありますが、可能な対応について検討させていただいて、できる限り反映したいと思います。

○田中委員 資料8の20ページの「子どもの意見を聞く取組について」のヒアリングの部分について、18歳以上の子どもを想定されていると思うのですが、現場の実感からすると、「こんな支援があればよかったと思うこと」などは、支援拠点に行ける方達だけの意見が聞かれるだけになってしまうのではないかという危惧があります。施設側の立場でみると、例えば、支援拠点「よこはまPortFor」に、まず行かないという子はたくさんいますので、そういう部分でいうと、施設のほうにしか来ない、その施設を出た後の子どもの意見が聞かれる機会みたいなものも聞かれるほうがいいんじゃないかなということで、これは令和6年度以降でもいいのかもしれませんが、これだと偏りがあるのではないかと思いますので、意見させていただきました。

○事務局 確かによこはまPortForに集っている方の中でも、全ての方が意見を言えるわけでもないということも承知しています。また、支援拠点に来られない方に対しての、田中委員のご意見もおっしゃるとおりですので、今後の検討の材料として考えていきたいと思っています。

○八木澤委員 今回のニーズ調査の本人さんたちに聞き取りのところでご意見させていただきたいと思いません。今回の回収方法についてもですが、毎回お伝えしているところですが、できるだけ事業所経由でのご本人さんの意見をまとめるというところが、やはりできるだけこの回収方法ではない方法でまとめていただきたいなと切に願います。

障害のある子たちですが、特に発達障害があったとしても、しっかり自分の意見を反映できる子たちです。その子たちの意見は、知的の重い子たちの意見を代弁しているというふうにごく思います。そういう子たちの話を聞いていると、事業所等もですが、やっぱり質的部分を、本人さんたちの意見から変えていただくのが一番早いのではないかと思います。意見の取り方ですが、本当に難しいと思いますが、他都市の良い方法があればそれに倣ってとか、色々大変な部分があるところですが、考えていただきたいなと思っております。

また、先ほど津富委員がおっしゃった子ども自身が関わって意見が伝えられるようなところを本当に進めていただきたいと思っています。

○事務局 子どもたちに対して、市が直接お伺いしたほうが良い場合と、様々な事業あるいは施設運営の中

で子どもたちの意見を、障害の有無にかかわらず反映させるのに適したやり方として、あえて事業者様のご協力をいただきながら取る場合と、いろいろと想定されるかと思います。私どもも、やり方について慣れていない部分がございますので、試行錯誤することになるかと思いますが、委員の皆様のご意見なども伺いながら、積極的に検討させていただけたらと思います。

○萩原委員 小学生調査の間43の子ども本人への質問について、「自分の家や学校以外で、楽しく過ごせる場所に○をつけてください」、これは子どもの志向に合わせた居場所の充実という意図で質問項目をつくったということで非常に苦慮されていると思います。

先日の青少年部会で、「現状の子どもたちの居場所を把握するという意味も分かるのだが、子どもたちが欲しいと思っている居場所を聞く設問がここでは必要ではないか」という意見が出されていたと思います。子どもの居場所として、どのような場所が欲しいかをストレートに聞く設問がないので、それを入れたほうが良いのではないかということだったかと思います。別紙4のNo.45の部会でのご意見では「『こんな居場所があったら良い』など、具体的な場所・施設などの例示をしたほうが施策につなげやすいのではないか」と意見がまとめられているんですが、実はそこはそういう意図ではなくて、子どもたちがこんな場所があったらいいんじゃないかと言う設問にしたほうが良いのではないかという意見でした。

そう考えますと、この間43は「今、自分の家や学校以外であつたらいいなと思える居場所に丸をつけてください」というような設問をしたほうが、子どもたちの潜在的ニーズを把握しやすい問いになるのではないかなと思います。間42は「やりたいことに○をつけてください」、間44は「横浜市がどのようなまちになってほしい」という子どもたちの願いを聞いています。そのため、間43だけが現状把握になる必要もないですし、子どもたちが欲しいと思っているところを聞いたほうがよるしいのではないかなというのが1点です。

もう1点が、中高生を対象にした調査の在り方について、資料8の中では、青少年活動拠点に来ている若者たちへのヒアリング、こども青少年局が実施する事業等の利用者へのアンケート・ヒアリング、高校生の体験活動に対するニーズ調査を今年6月から7月に市立高校の生徒を対象として実施が挙げられておりますが、中学生と高校生の両方またがって、ヒアリングだと圧倒的に母数が少ないと思います。

今回のニーズ調査は、小学生の子どもたちだけでも6万人以上を対象にしているのに対して、事業所ごとにヒアリングとなると相当人数が限られていると思います。田中委員からもご指摘があったように、それは来る子たちだけの意見になってしまうということもあるので、そうした中学生や高校生へのもう少し大規模なアンケート調査をご予定されているのであれば、今回の調査とリンクさせたような設問をつくって実施されるほうが意義があるのではないかと思います。それは青少年部会で出てきた地域青少年活動拠点のこれからの事業の見直しとも深くつながってくる話かと思えますので、そこは前向きにご検討いただきたいなと思います。

最後に、小学校4年生以上の子どもたち本人への質問の最初のリード文は、若干読みにくいと思います。例えば、「横浜市子ども・子育て経営支援事業計画という計画をつくっています。皆さんにとって、よりよい計画となるよう、ぜひあなたの考えを聞かせてください。以下の5つの質問にお答えください」程度に文を少し短めに切って、ストレートに子どもたちに意見を聞きたいんだよという思いを伝えたほうが、子どもたちは結構、大人以上に答えてくれるところがありますので、参考までにご提案させていただきます

○石井委員 保育・教育部会のときには伝えたのですが、新宿区では、次世代育成支援に関する調査があり、

5・6年生向けの調査票、中学生向けの調査票、青少年向けの調査票と子ども自身が答える調査票が3つあります。

その中の5・6年生向けのアンケート調査のかがみ文では、「このアンケートは、新宿区が小学校5・6年生の皆さんのふだんの生活の様子や日頃考えていることを教えてもらうためのものです。新宿区が、皆さん一人一人が自分らしく成長していけるまちをつくるために、このアンケートの答えを役立てていきます。あなたがどのように答えたかは誰にも知られることはありません。また、答えてもらったことは、このアンケートの目的以外に使いません。とても大切なアンケートですので、皆さんのご協力をお願いします。」ということで、区長名でかがみ文がついています。

記入に当たってのお願いというのもあるが、おうちの人や友達と相談したりせず、あなただけの考えで答えてくださいなどなど、記入に関しての注意書きも記載がありますので、参考になればと思います。思いまして発言させていただきました。

○萩原委員 子どもたち本人への質問の自由記述の欄ですが、子どもたちが自由に書けるようになりますので、なるべくなら大きめにつくってあげないと、子どもたちは結構大きな字で書いたりして、埋められない可能性もありますので、なるべく自由度の高い大きめなスペースをつくってあげたほうが答えやすいかと思います。インターネットで答える分には、行が増やせるのでこの欄でも良いと思います。

○水谷委員 調査の抽出数が、未就学6万5000人、小学生6万7000人と出ておりますが、抽出数は母集団に対して抽出率の根拠を教えてくださいなればと思います。令和2年度の子どもの生活実態調査と比べると抽出数がすごく多い数となっているので、それについて教えてくださいなればと思います。

次が、多少、研究的要素になってしまうのですが、この調査では、子どもの性別の設問はあえて設けていないという理解でよろしいでしょうか。調査の対象になったお子さんの性別を聞いていないことについて、教えてくださいなればと思います。

次に、今回はインターネット回答を併用するため、若い世代の方が回答しますから回答率が上がると思われます。しかし、インターネット回答は、回答途中で中断ができると思いますが、中断後に、ちゃんと調査を回答し終えた人と、途中で回答をやめてしまった人を、ログ等で評価ができるのかについて教えてくださいなればと思います。5年後にも同様の調査をやりたいと思いますので、今後のためにも、この程度の調査項目のぐらいの量でいいのかとかも評価なさったほうが良いのではないかと感じました。

○事務局 1点目の抽出数ですが、横浜市では、例えば、教育・保育の「量の見込み」と「確保方策」として、ニーズ調査において保育所等を利用したい方がどの程度いるかを明らかにし、それに対して、保育所等をどの程度整備し受入枠を確保していくのかなどの計画を定めることとなります。

教育・保育等の「量の見込み」と「確保方策」については、横浜市全体ではなく、年齢ごと、区ごとでその必要量を算出しているため、区ごと・年齢ごとの人数を母集団として抽出している関係上、大規模な人数になっています。

2点目ですが、過去の2回も含めて、子どもの性別の設問は設けていませんが、強い考えがあつてということではないように認識をしています。

3点目ですが、インターネット回答を途中でやめてしまった方などを把握できるかは、調査する委託の事業者とも相談をしていきます。なお、調査の設問数につきましては、前回と比べれば未就学児については3割程度削減を図って、前回95問から65問ぐらいという形にはなりますが、それでもまだこのボリュームというところなので、ご指摘を踏まえてまた考えていきたいと思っています。

○水谷委員 性別については、発達障害等も含めまして性別の影響が出るものがあるのではないかと思います。区ごとの評価もなさっているとことなので、情報を知るという意味では、項目があってもいいのかなと感じましたので、あえて設問を設けていないのでなければ必要かもしれないと思いました。

○大日向委員長 性別について、ジェンダーの問題で難しい部分もありますので、例えば、回答したくない人は未回答でも良いという項目を設けた上で設定するということもあり得るということでしょうか。

○水谷委員 それでも良いかと思いますが、色々なお子さんの状況をとって、情報を知る機会があまり無いのかなという意味で、設問を設けることに対して、それほどトラブルがないのであればお聞きしてもいいのではないかと感じました。

○大庭委員 アンケートを取る場合は、これから起こり得る問題も想定して取られると思います。そうしないと時期的に遅くなってしまいうことで、私なりに最近子どもが変わってきているなということを実感しておりますので、その点を少しご報告させていただければと思います。

コロナが明けて貧困の問題が本当に大きくなってきたなと思います。そのため、先ほどは学校の給食の問題に触れさせていただきました。また、障害に関しては、一概にこのような対応ができる・できないという問題ではなく、個別の対応が必要になってきており、その程度の幅が広がってきているなと思っております。

あと、非常に気になる点は、子どもの暴力に関して、今まではゲームに勝った・負けたなどの範囲で急に暴力性が出てくるとことはあったのですが、最近は、意味無く人を突き飛ばすことなどが現場では起きており、保護者の方に報告してもなかなか信じられないような状況があります。

このようなことが現場で起きていることなので、今から内容を変えるわけにはいかないと思いますが、集計を取る際などに参考にしていただければと思います。

○大日向委員長 大変貴重なご意見をありがとうございました。部会でもとてもご熱心にご検討いただいた上に、本日このように時間をかけてご意見いただきましたことを感謝申し上げます。

皆様のご意見を伺いまして、事務局の微修正で対応できる部分も多かったと思います。また、かがみ文の部分では文案もいただきましたので、新宿区の例や萩原委員の意見も文案調整で入れていただければと思います。

一番議論のあったところは、子どもの意見の聞き方、あるいは障害や様々な困難を抱えていて拠点に行けない子どもたちの声をどう聞かかということであったと思います。本当に大事な点だと思います。こども基本法の主眼ではあるのですが、それは今回のニーズ調査で押さえることが必ずしもできることではないと思います。その他の様々な機会やツールを設けていただいて、よりこのアンケートの関係で、声を上げにくい子どもたちや親などの声も、ぜひすくい上げて、このニーズ調査との関連性を高めながら、計画に反映させていただければ大変ありがたいと思います。

今申し上げましたような方向で、事務局での修正・検討いただくということでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

3 報告事項

(1) 「はじめてのおあずかり券」及び「子サポdeあずかりおためし券」の配付について

事務局から資料に基づき報告

(2) 横浜市立大学と連携したハマスタディ調査結果について

事務局から資料に基づき報告

資料	<p>資料1 第6期横浜市子ども・子育て会議 委員名簿・部会名簿</p> <p>資料2 第6期横浜市子ども・子育て会議 事務局名簿</p> <p>資料3 横浜市子ども・子育て会議条例、横浜市子ども・子育て会議運営要綱</p> <p>資料4 部会報告 子育て部会</p> <p>資料5 部会報告 保育・教育部会</p> <p>資料6 部会報告 放課後部会</p> <p>資料7 部会報告 青少年部会</p> <p>資料8 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について</p> <p>資料9 「はじめてのおあずかり券」配付開始！〔記者発表資料〕</p> <p>資料10 地域で子どもを預かる「横浜子育てサポートシステム」無料クーポン（子サポdeあずかりおためし券）を配付し、利用料の改定を行います！（記者発表資料）</p> <p>資料11 横浜市立大学と連携したハマスタディ調査結果について</p>
特記事項	なし